

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(尾鷲高等学校 定時制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		より豊かに社会生活を営むことができるよう、生徒一人ひとりの生きる力を高める学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・基礎的な学力を習得し、さらに自ら学び続けようとする生徒 ・誰にでも、気持ちのよい挨拶ができる生徒。 ・規律を守ることができ、仕事をする上で必要なコミュニケーション能力が身についた自立した社会人
	ありたい教職員の姿	・チームワーク良く、明るく風通しのよい職場環境で充実して業務に取り組む教職員。 ・多様な生徒の一人ひとりに応じた適切な指導に取り組むことができる幅広い能力を持つ教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 卒業して進学や就職をしたい。 <保護者> 卒業して進学や就職をしてほしい。学習指導と生徒指導を充実させてほしい。 <地域> 将来地域で活躍する生徒を育成してほしい。				
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<table><tr><th>連携する相手からの要望・期待</th><th>連携する相手への要望・期待</th></tr><tr><td> <中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。 </td><td> <中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。 </td></tr></table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待					
<中学校>生徒に生きる力を身に付けさせて社会に送り出してほしい。 <保護者>卒業して進学や就職をしてほしい。 <進路先>挨拶ができ、コミュニケーション能力とやる気のある生徒に来てほしい。	<中学校>生徒の基礎学力定着と学習意欲向上を一層図ってほしい。 <保護者>本校定時制の教育に一層の理解と協力をしてほしい。 <進路先>定時制の生徒の進学や就職の機会をさらに増やしてほしい。					
(3)前年度の学校関係者評価など		ICTに関しては、社会に出てからも利用する機会が多いので、更に発展させて授業での活用を続けてもらいたい。現在、定時制は小学校・中学校時に不登校だった生徒や特別な配慮を必要とする生徒たちの受け皿を担っている貴重な存在である。これからもそのような生徒たちの将来につながるように、多くの人と触れ合う体験ができる環境を整えてほしい。令和 5 年度に行ったインターンシップはとても良い行事なので、これからも続けてもらいたい。人とのつながりを作るために、事業所などとも連携しながら教育活動を続けていきたい。				
(4)現状と課題	教育活動	今後ますます、課題を抱えた生徒が増えてくると予想できる。これまで行ってきた基礎学力の定着に加え、人との接し方や社会で生きていくためのルールやマナーの育成も必要となると推測できる。尾鷲高等学校定時制という安心できる「居場所」としての日常的な活動を継続しつつ、インターンシップや社会見学など、多くの人と接する経験ができる場を用意し、体験しながら学んでいく環境も整えていく。				
	学校運営等	これまでと同様に、情報共有を密に行い、職員全員が共通理解をもって生徒や業務に対応できるようにする。また各自が自己の資質や能力の向上につながる研修に励み、研修等で得た知識を共有し、全体で利用していける仕組みを構築する。				

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・社会生活を営むうえで必要な ①基礎学力を定着させる活動を推進する。 ②規範意識を確立させる活動を推進する。 ③社会性を身につけさせる活動を推進する。
学校運営等	・教職員が生き生きと職務に邁進できるように、総勤務時間削減に努める。 ・生徒と積極的にコミュニケーションをとり、複数の教職員が関わりながら、きめ細やかな教育相談や支援を行う。 ・教職員が同じ方向を向いて生徒に対応できるように日頃から情報共有を心がけ、指導方法の確認を行う。 ・多様な生徒への適切な指導ができるように研修を行い、教職員の資質向上を目指す。

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・毎日の授業を大切にする生徒 ・目標に向かって、努力する生徒 ・あいさつができ、ルールを守って行動できる生徒
-------------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力の 定着	・基礎学力の定着を目指す ・生徒の学習意欲を引き出す授業の実施に努める 【活動指標】 (1)各教科・科目の学習において、基礎的・基本的な部分の徹底を図る。 (2)生徒の学習意欲につながるよう授業を工夫し、個々の生徒に合ったきめ細やかな指導を行う。 (3)授業規律を確立するとともに、授業に集中できない生徒には粘り強く声をかける。 (4)将来の進路選択につながる学習を授業の中に取り入れることで生徒に卒業後の目標を持たせたり、集会で授業の意義を考えさせたりして、学習や授業に対する生徒の意識と意欲を高める。 【成果指標】 生徒アンケートで「入学してから自分の学力が伸びていると思いますか」に対して「大いに伸びている」、「伸びている」と答える生徒が60%以上となる。	【活動指標】 (1)基礎的・基本的な学習に重点をおいて行うことができた。 (2)生徒が意欲をもって取り組めるように授業の工夫に努めた。 (3)生徒アンケートによると、約70%の生徒が学習しやすい環境であると答えている。 (4)工夫はしているが、元々学習意欲が低く、意欲が少し高まったとしても進路選択や目標につながらないことが多いと感じる。 【成果指標】 左記の指標については38%であった。(未達成)	◎

規範意識の確立	・登校時や授業の合間など日常的に生徒への声かけを積極的に行い、生徒との信頼関係を深めながら、一人ひとりの学校生活の充実を図る。 ・問題行動やいじめは常に起こりうるという意識を持ち日頃から未然防止に努めつつ、発生時には迅速かつ組織的に対応する。 【活動指標】 (1)毎日、生徒の登校時に全教員で登校指導を行い、生徒一人ひとりと挨拶を交わしながら、声をかける。 (2)学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止と早期発見・対応に努め、きめ細かく相談や支援を行う。 (3)遅刻・早退・欠席等の多い生徒や不登校生徒には、声かけや面談を行い、家庭と連携して改善に取り組む。また必要に応じて、地域の関係機関と連携する。 (4)交通安全や学校敷地内喫煙・未成年喫煙の防止、スマートフォン等の使用マナー向上、薬物乱用防止などの学習や啓発に取り組む。 【成果指標】 生徒の問題行動やいじめの発生件数0件をめざす。発生した場合は、速やかに対処し、かつ継続的に対応していく。	【活動指標】 (1)登校時の声掛けをはじめとして、様々な場面で生徒との信頼関係を大切にしながら生徒に寄り添った。 (2)それぞれの生徒の現状や人間関係を把握し、相談や支援を行った。 (3)家庭との連絡を密に行い、地域の関係機関とも連携して対応した。また基本的な生活習慣が身につけていない生徒には担任を中心として粘り強く声をかけ、改善できるよう努めている。 (4)通学方法が多様多様になっているので、地域の警察とも連携して交通安全教室なども行った。喫煙防止については日常的に指導しているが、さらに徹底していく必要がある。スマートフォン等の使用マナーはまだまだ改善する余地があるので引き続き対応していく。 【成果指標】 いじめの発生件数は0件。昨年度から継続的に見守っている生徒も特に大きな変化はないが、今後も見守りを継続していきたい。(達成)	◎
社会性の育成	・社会人として必要な社会性と一般常識、仕事や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ・学校行事の充実、校外行事への積極的な参加に努め、生徒の良好な人間関係の醸成と高校生活の充実を図る。 【活動指標】 (1)登校時や職員室への入室時など様々な機会をとらえて挨拶を促し、コミュニケーション能力を高めるきっかけとする。 (2)日頃から生徒の努力を褒めることで、生徒の自信を引き出し、生徒が積極的に学校生活を送れるよう促す。 (3)在学中も働くことを奨励し、アルバイトを含め仕事に就いている生徒を増やし、生徒の仕事と学校の両立を支援する。 (4)生徒の進路希望に応じて個別指導を実施し、希望進路の実現を支援する。 (5)就労希望者や卒業時進路未決定者を支援し、卒業後もできる限りの支援を継続する。 【成果指標】 (1)卒業時に進学も就職もしない生徒を0にする。 (2)年間計画に沿って学校行事を着実に実施するとともに、定時制通信制教育関係の校外行事等に参加する。	(1)こちらからの挨拶には返答できる生徒が増えた。また職員室への入室時の挨拶もきちんとできる生徒が増えている。しかし挨拶をしても返さない生徒も一定数いるので、それらの生徒のコミュニケーション能力が少しでも高まるよう、日頃の会話などを良い機会として捉え、成長できるように促したい。 (2)日頃から生徒を誉めたり励ましたりしながら生徒の自信や意欲を持てるように努めた。 (3)働いている生徒も多いが、一度も働いたことがないという生徒も多くなってきた。教員側からは面接に向けたアドバイスをなどの支援を行っている。 (4)進路の希望や目標を明確にできない生徒が多く、進路の実現はかなり難しかった。 (5)「とりあえず卒業すること」を目標にする生徒はその次の進路や目標にまで進めなかった。今後	◎

		もそのような生徒が増えると予想できるので、対策を考えていく必要がある。 【成果指標】 (1)事情により進学も就職もしない生徒が数名いた。(未達成) (2)修学旅行をはじめとして計画した学校行事をしっかりと行うことができた。校外の行事には生活体験発表は参加できたが、スポーツ大会は参加することができなかった。(未達成)	
改善課題			
・基礎的・基本的な学習に重点をおいて行うことができた。しかし、それでもまだ難しいと感じる生徒がいるので、どこまで基礎的なレベルを下げていくのか、またそれが必要なことなのかを考えていくのが今後の課題である。 ・今年度は講演等で教員以外の大人の話を聞ける機会を多く作った。今まではグループ活動などをする場面があまりなかったが、講演の中でのグループ活動は、勿論教員のサポートもあったが、懸念していたよりもスムーズに行うことができた。また全員が揃った場所で、講師の先生に堂々と質問する生徒もいた。今後も、これはできないとやる前から決めるのではなく、生徒のためになることは対策を考えながら行っていくことが必要だと考える。 ・小学校、中学校で不登校だった生徒の多くは学校に来て毎日が無難に過ごし、とりあえず高校を卒業することに目標を置いているように感じられる。更にその先の卒業後には目が向かない生徒が多くいるので、低学年から「働くこと」や「卒業後の進路」について触れる機会を多く持ち、考えを深めるよう促していく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
チームワーク向上と環境整備	・生徒の状況や各自の仕事の進捗状況等についての情報共有・情報交換を一層励行し、協力して仕事を進める。 ・教職員が生徒に向き合う時間を確保し、職務に邁進できるよう、総勤務時間縮減に努める。 【活動指標】 毎日、勤務時間の始めに打合せを実施する。必要に応じ、授業終了後、勤務時間終了前までにも実施する。 【成果指標】 (1)全教職員が毎日の定時退校を徹底し、毎月の時間外労働時間をほぼ0時間とし、月45時間・年360時間を超える時間外労働をする教職員を0人とする。 (2)すべての会議は勤務時間開始後、生徒の登校までに実施し、60分以内に終了する。 (3)全教職員が年次有給休暇を15日以上取得する。	【活動指標】 職員打合わせは毎日確実に行うことができた。また必要に応じて授業終了後等にも打ち合わせを行うことができた。 【成果指標】 (1)毎日全員の定時退校を徹底することができた。また左記の時間外労働時間についても達成できた。 (2)達成できた。 (3)平均の年次休暇は17.3日であった。(1月末)職員8人中6人が達成できた。	◎

教職員としての資質向上	学び続ける教職員としての意識を高く持ち、校外研修や授業が始まるまでの時間帯を生かしての研修に積極的に取り組む雰囲気高め、教職員としての資質・能力向上を図る。 【活動指標】各自が参加した研修会や担当者会議の内容で汎用性の高いものを中心に、資料等の回覧を行う。 【成果指標】年8回程度、職員会議後を中心に、時期に応じたテーマによる研修を行う。	【活動指標】研修での内容は、口頭や回覧などで他のメンバーへの周知を行うことができた。特に生徒指導の内容は毎回回覧を行うことができ、内容について話し合うことができた。 【成果指標】達成できた。	◎
改善課題			
コンプライアンスミーティングや人権研修などは個人でも全体でも行うことができた。教員の人数が少ないので、改めて「研修」としなくても毎日の打ち合わせや、日常の会話の中でいろいろな話題について話し合うことができるのが強みである。今後もその強みを生かして、情報共有や新しい話題の提供などを行い、生徒支援に役立てたい。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・基礎基本をどの程度まで下げていくかはとても難しい問題だが、引き続き学習に興味を持たせることで基礎基本の徹底に取り組み、自宅学習なども活用しながら今後も粘り強く対応してもらいたい。またグループ活動や社会見学などいろいろな体験を通した活動をこれからも続けてもらいたい。 ・高校まで不登校だった生徒が多く入学していて、もし定時制がなければ、中学校卒業後に社会と繋がることができなくなる子どもたちがたくさんいるので、とてもありがたい存在である。更に、高校卒業後に社会で居場所を作れるように、「働くこと」に興味を持たせて、4年間のうちに外とつながるような工夫をお願いしたい。 ・今年度は生徒のアンケートでは9月から1月に大きくポイントが下がっている項目があるので、それを検証して今後につなげてもらえると良い。
---------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	小中学校で不登校だった生徒たちにとって、「とりあえず卒業」は大きな目標かもしれないが、更にその先にも人生が続くことを考えると、4年間の間に「働くこと」を含めた「卒業後の人生」にも目を向けることができるような取り組みが必要であると考え。日頃の学習活動はもちろんであるが、生徒にとって有益になるような講演や体験活動を通して社会に出ても困らないような力をつけられるように計画し取組を進めたい。
学校運営についての改善策	風通しが良く、情報共有できるのは強みである。その強みを生かしながら、慣習にとらわれずに新しい考え方ややり方を考案し、皆で話し合いながら計画をたて、よりよい学校運営を行えるようにしていく。また他の教員や生徒に還元していけるように、授業までの時間を利用した教材研究や研修を更に推進する。